

西丸大奥向惣絵図

〔サイズ〕 全体法量 89.0 × 50.3 cm¹ 封筒 17.4 × 8.2 cm¹ 袋 : 27.5 × 9.2

cm

〔紙質等〕 楮紙、手書彩色

〔方位・縮尺記載〕 なし

〔所蔵・伝来関係〕 東京大学史料編纂所 島津家文書 82-6-3-1

江戸城西丸御殿（西丸の位置については図1参照）は、大御所や将軍世子が住んだ場所である。規模は本丸御殿よりもやや小さいが、御殿内部は表・奥・大奥に分かれ、部屋の配置は本丸御殿に準じていた。文禄三年（一五九四）の創建から明治まで、五度焼失し、造営・修築は七回に及んだ。本史料は江戸城西丸御殿の大奥部分を示した図である（図4・5）。各部屋の名称のほか、二階・三階の部分などを色分けしており、空間構成を考察する際に重要な史料である。

【封筒上書】「大奥向」

【袋上書】「嘉永五年子御出来之西丸大奥之図一枚」「別袋ニ委き図有之候」

【内容からよみとれる年代】

本史料は、御殿向に新御殿、御座之間、東御殿などの部屋があり（図5）、上下二本の御鈴廊下を備え、東側半分ほどを長局が占めていることや全体的な形など、江戸時代中後期の西丸大奥の特徴を備えている。

嘉永度西丸のひとつ前に造営された天保度の西丸大奥は、御殿向の西北端部分に「新二之長局」が設置された点が特徴的で、これは大御所家斉と大御台所寛子が西丸にいたため、その女中の人数が多く、長局を増やしたものであるという（畑尚子『徳川政権下の大奥と奥女中』岩波書店、二〇〇九年）。

嘉永度西丸大奥には新二之長局は設置されなかったが、敷地の壁だけが残された。本史料は新二之長局の空間はあるものの建築物の記載がないことから、たしかに嘉永度の西丸大奥を描いているといえる。

本史料とはほぼ同内容の絵図として、本史料と同じ島津家文書の中にある「西丸大奥向惣絵図」（島津家文書81-4-33-2）が挙げられる。この絵図は「江戸城大奥惣図」（81-4-43）という表題がつけられた史料のうちの一枚で、ほかに「大奥向惣絵図」（81-4-43-1）、「長局向惣絵図」（81-4-43-3）という絵図とともに袋で一括されている。さらに、その次の請求番号にあたる「江戸城大奥絵図」（81-4-44）も本史料と対応している。この史料は七枚の絵図が袋に一括されているもので、それぞれ西丸大奥の主要な部屋付近を描いたものとみられる。七枚の絵図は、各部屋の天井の装飾や襖の絵柄などの室内装飾が記載されているが、場所によっては朱筆で訂正が加えられている。ここから、嘉永度西丸大奥がいずれかの時期に改装されたことがうかがえる。その変化した部分を示したものがこの七枚の絵図であろう。

本史料と81-4-43-2で部屋名を比較したところ、本史料には祐筆間の西隣に「御台子之間」があるが、81-4-43-2では廊下になっている。また、対面所から御調台をはさんで東に並ぶ部屋の名称が、本史料は「梅之間」となっているが、81-4-43-2では「羽目之間」になっていた。この点について、81-4-44のうちの「御対面所上御膳所菊之間御神棚向絵図 七枚之内」（81-4-44-2）をみると、「梅之間」の「梅」の部分の朱で「羽目」と直している（図3）。ここから、「梅の間」は「羽目之間」と名称が変わったと考えられ、「梅之間」とある本史料は、81-4-43-2よりも古い時期のものであるとわかる。

さらに、「御対面所上御膳所菊之間御神棚向絵図 七枚之内」（81-4-44-2）には、表題にあるように、菊之間の廊下をはさんだ南西側の部屋を「御神棚」と記しているが、本史料と81-4-43-2では「御清之間」とある。このため、本史料から81-4-43-2への変化を必ずしも81-4-44がすべて示しているとはいえない。なお、旧幕府引継書のうちの「西丸大奥向絵図」（国会図書館所蔵819-53）は「羽目之間」「御神棚」が記されている絵図である。

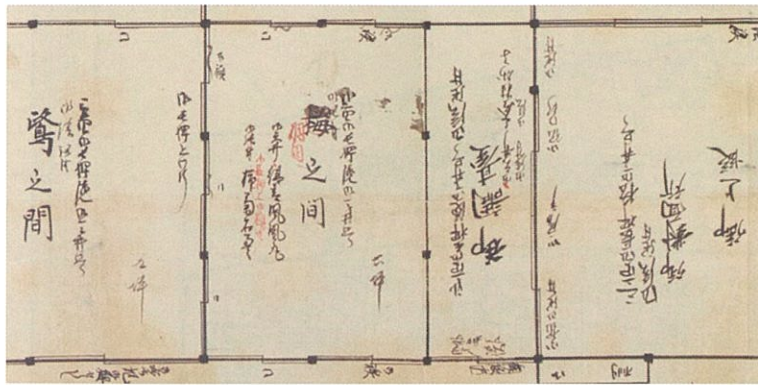


図3 梅の間拡大

【凡例・序・跋等】
▼ 色凡例

そのときに、西丸に改装が行われているが、具体的な変更内容が不明であるので、図3に示された変更がこのときに行われたものであるかどうかは、さらなる検討を要する。

以上、複数の絵図をもつて検討した結果、嘉永度西丸の大奥は造営後に改装が加えられたことがあきらかであり、その大きな理由が安政六年の本丸焼失による西丸への將軍家移転であることが推測できる。本史料が示す時期は明確にはできなかったものの、これらの改装が完了する以前の状態とみられ、嘉永度西丸大奥の比較的造営に近い時期であることがうかがえる。

肌色―此色御殿向、深緑色―此色御二階家、茶色―此色御三階家、桃色―此色長局向、橙色―此色御切手御門内部屋々々、青色―此色御裏御門内詰所向、灰色―此色濡傳椽石類共

【図中の主な文字記載】

▼ 御殿向

「上御鈴廊下」「下御鈴廊下」「御新座敷」「松之間」「御茶所」「御錠口詰所」「御対面所」「梅之間」「鷺之間」「御掾座敷」「御座之間」「御化粧之間」「御台子之間」「老女衆詰所」「表使詰所」「御広座敷」「御祐筆間」「表膳所」「御用人詰所」「番之頭詰所」「添番詰所」「進上取次所」「御広敷御玄関」「御用達部屋」「東御殿」「御広間」「御小座敷」「呉服之間」「東御中居詰所」「隅之部屋」「長局は「三之側」「二之側」「西之側」「東之側」「四軒部屋」「北側」「御半下部屋」「七ツ口」など。

【類例】

本史料と同じ嘉永度西丸大奥図と思われる絵図は複数確認できたが、部屋名が完全に一致するものはいまのところ見つからない。

「大奥向惣絵図」（島津家文書 81-4-43-2）

「西丸大奥向総絵図」（旧幕府引継書、国会図書館所蔵 819-53）

このほか、計画図との見方もあるが、甲良家伝来の「西丸大奥御殿向惣絵図 六分一間之割」（都立図書館 6182-1）、「西丸大奥惣地絵図 二分一間之割」（都立図書館 6182-2）を記しておく。

【画像】 東京大学史料編纂所HP「所蔵史料目録データベース」

<http://www.wap.h.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>で公開されている。

（吉成香澄）

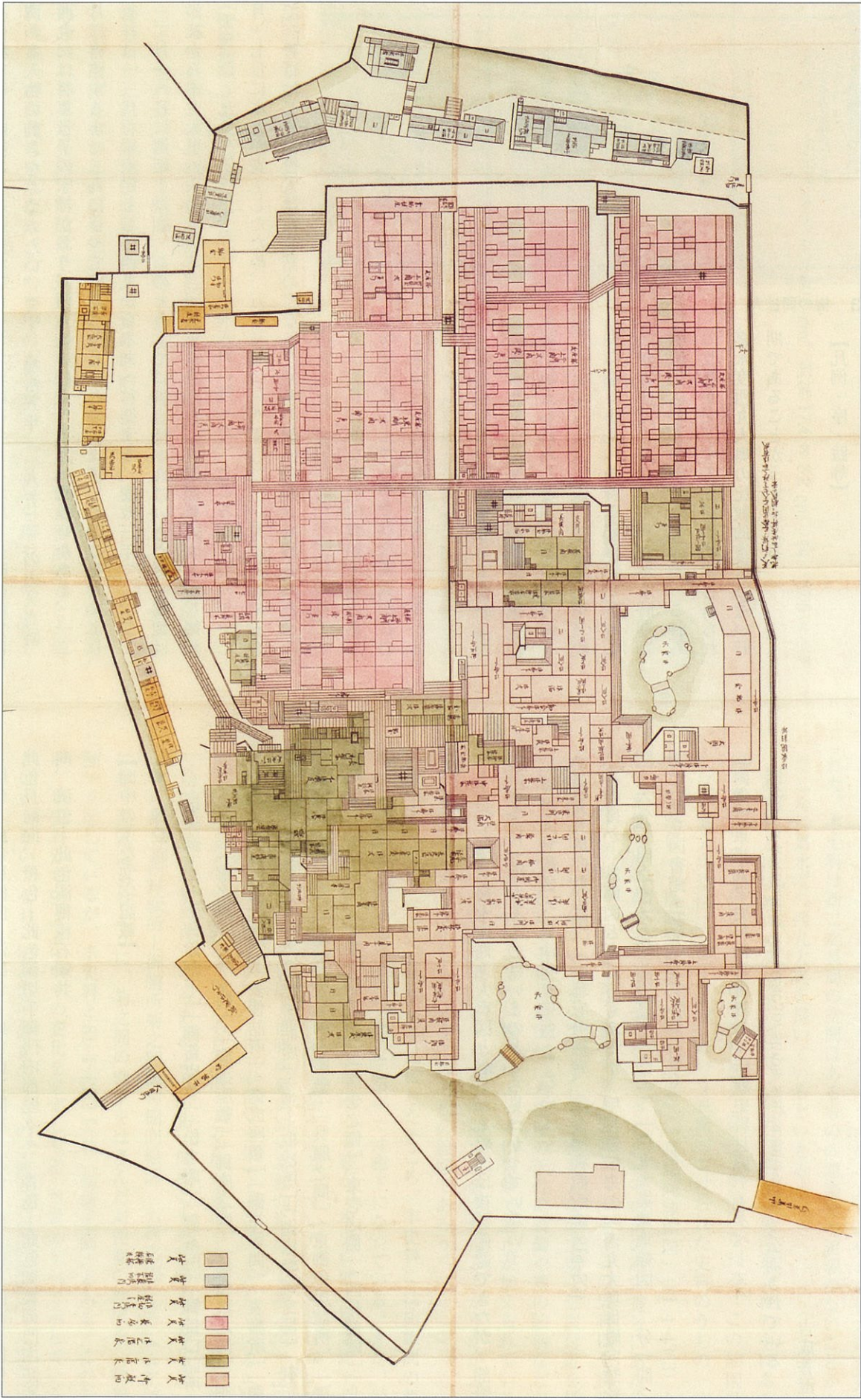


図4 西丸大奥向惣絵図

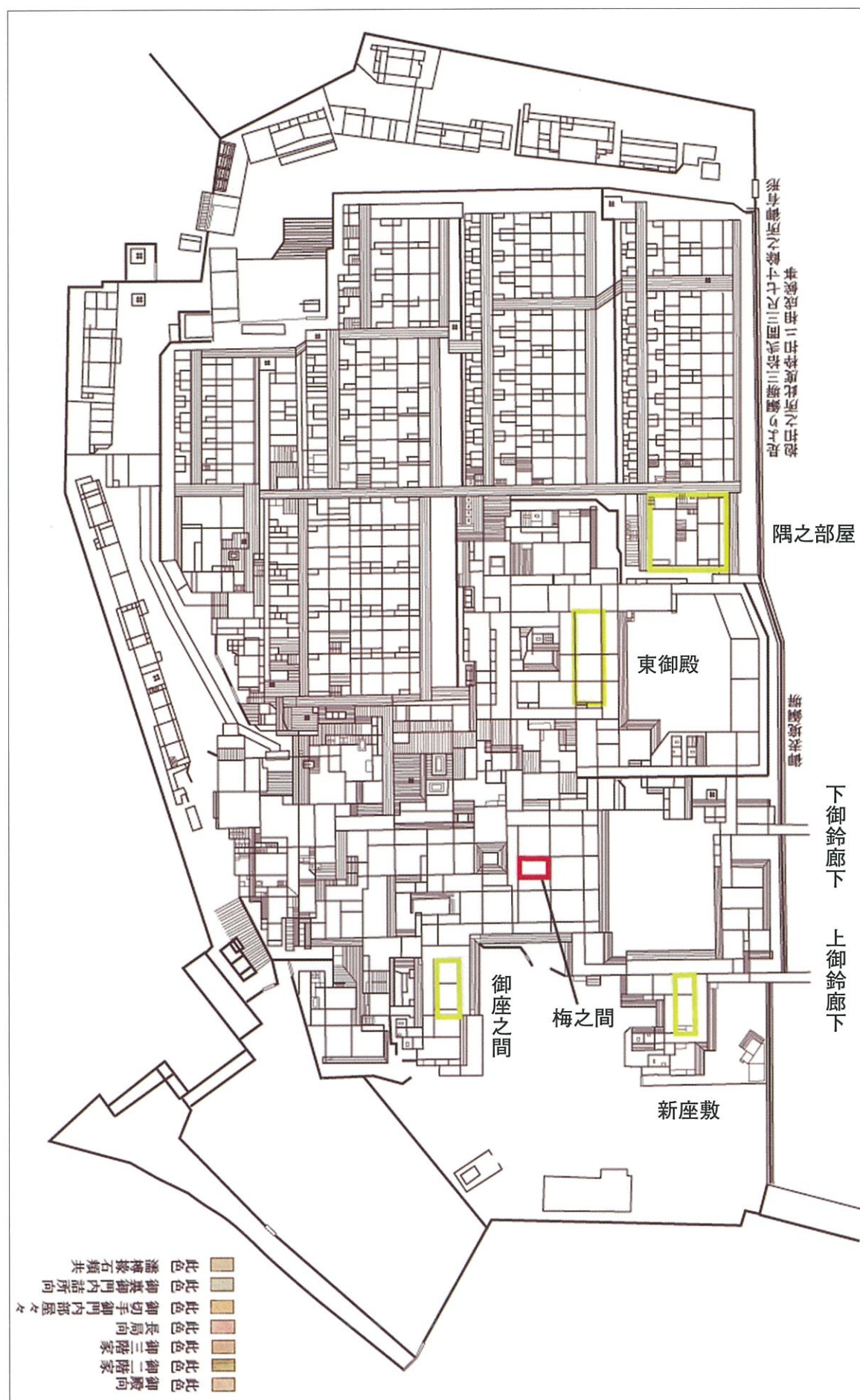


図5 西丸大奥向惣絵図（トレース）